

1. 医学部医学科教育

全国的な改革の嵐の中で医学教育も大きな変革を求められてきた。全国の大学に先駆けて、大学評価・学位授与機構による教育評価を受けた。全学教育では、平成14年度からのカリキュラムの大幅な変更に向けて、準備がなされた。それに伴い、学部教育もカリキュラムの変更が必要になった。一方、医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議による「モデル・コア・カリキュラム」の制定、「臨床実習開始前の共用試験」の導入などは、教育改革に向けて本学における取組を加速する要因となった。これらに対応する形で、ハード、ソフトの両面から医学教育の環境整備が行われた。

(平成13年度 医学部長 齋藤 寛、教務委員長 由井克之
学生委員長 綾部公懿、入試委員長 丹羽正美)

A. 全学教育

医学部は、個別科目の人間科学分野の責任部局として運営を担っている。また、医学部医学科からはのべ148名の教官が6分野、29科目の授業を担当した(表1)。全学教育が始まって以来の大幅なカリキュラム変更が平成14年度に予定されており、科目の設定などその準備作業が一年を通して行われた。新カリキュラムでは、全学教育履修科目の削減、少人数教育(教養セミナー)の導入などが実施される。

B. 専門教育

平成13年度より、第一回学士編入学学生5名が入学した。編入学生のために「事前教育」、「チュートリアル教育」など新しい試みが開始された。

医学科専門教育では、三年時の「医と社会」にコミュニケーション能力の向上やチーム医療の理解を目指してセミナーや診療所・老健施設での体験実習が導入された。その他、基本的には昨年度と同様な時間割で実施された(表2)。リサーチセミナーも昨年と同様であり、7名の学生が海外実習に参加した(表3)。臨床実習協定締結施設は昨年の8から19に大幅増加、臨床教授・臨床助教授・臨床講師も20名に増加した(表4)。平成13年度の卒業生は104名でその国家試験合格率は94.2%であった。

C. 大学評価・学位授与機構による分野別教育評価(医学系)

平成12年度に着手する大学評価「分野別教育評価(医学系)」の6大学のひとつとして評価を受けた。医学部、医学研究科各々につき、教育目的及び目標を明確にした上で、アドミッション・ポリシー、教育内容での取組、教育方法及び成績評価面での取組、教育の達成状況、学生に対する支援の各項目の自己評価書・根拠資料を提出(7月)した。機構による書面調査、訪問調査が実施され、評価結果が公表された。訪問調査(10月31日~11月2日)では、5名の評価委員によ

り、面接（学部関係者、学生、教員、学外関係者、卒業生）や施設見学など幅広く調査が行われた。

（教育評価実施準備委員会：由井（委員長）、綾部、丹羽、谷山、江口、毎田、上平、田口、大園）

D．「臨床実習開始前の共用試験」の導入と問題作成

平成17年度の本格的導入に向けて「臨床実習開始前の共用試験」が実施されることになった。知識・技能・態度をコンピューター試験（C B T）と客観的臨床能力試験（O S C E）の二本立てで評価する。C B T実施に向けて本学にも100題以上の問題作成が依頼され、20名のC B T問題作成委員会を組織して問題作成及びそのブラッシュアップを行った。本年度末C B Tの第一回試験が行われる。ハード面では、C B Tに備えるため旧原研二号館二階に学生用パソコン50台を設置した「情報処理室」を整備した。

（共用試験C B T問題作成委員会：由井（委員長）、下川、竹本、近藤、森内、大園他19名）

E．専門教育カリキュラムの見直し

全学教育の変更、コア・カリキュラムの導入、診療参加型実習の拡充などの必要性から、カリキュラムの見直しを行った。平成14年度の新入生から施行される新カリキュラムでは、単位制の導入、「コア・カリキュラム」の導入に伴う従来の各科目の授業時間の削減、「医学ゼミ」の導入、「リサーチセミナー」の拡充と3年次への移行、「臨床実習」の拡充（特に「高次臨床実習」の導入）がはかられた。また、従来の複雑化していた進級判定を改善し、成績評価の学年末判定と進級判定基準の厳格化を行った。

F．第一回医学部医学科F Dの実施

医学教育の急速な改革の流れに対する教官の理解と意識を高める目的で、一泊二日（11月16・17日）の日程で第一回医学部F Dを開催した（長崎式見ハイツ）。客観的臨床技能試験（O S C E）の導入とコア・カリキュラムに対する理解をテーマに、畑尾正彦先生と佐藤達夫先生の講演、O S C Eの体験実習、グループ別討論、全体討論などを行った。29名の教官の参加を得、タイトなスケジュールであったが討論は大いに盛り上がった。この成果は、学内でのO S C Eの導入と新カリキュラムの作成に反映された。

（文責 由井克之）

表1 平成13年度 医学部教官の全学教育への参画

A. 全学教育授業科目担当の医学部教官

分野	授業科目	担当教官
人間科学分野	人間学A	片峰 茂、古賀成彦、永田耕司、酒井英樹、藤下 晃、野俣浩一郎、横尾美智代、錦戸雅春、中山大介、福田久信
	生体機能学A	岩堀修明、柴田尚武、澄川耕二、中根允文、吉田 繁、重野浩一郎、上之郷眞木雄、中村龍文、北岡 隆、笠 伸年、斎藤了一、調 漸、辻田高宏、徳永能治、城丸みさと
	健康科学A	下川 功、関根一郎、下田照文、原田孝司、朝長 匡、入江準二、竹中 基
	ハンディキャップA	雨宮次生、松本智子、平野明喜、北岡 隆、今村芳博、中根秀之、塚崎尚紀、城丸みさと
	人間学B - 1	近藤達郎、木下英一
	人間学B - 2	下川 功、中園一郎、折原義行、池松和哉
	生体機能学B - 1	相川忠臣、下田照文、栗山一孝、山田恭暉、早野元信、松本逸郎、瀬戸信二
	生体機能学B - 2	牧山和也、芦澤潔人
	生体防御B	片山一朗、由井克之、鶴殿平一郎、廣瀬寮二、右田清志、清水和宏、濱崎洋一郎、川上 純、竹中 基
	生体と薬B	佐々木均、谷山紘太郎、丹羽正美、柴田 治、槇田徹次
	健康科学B	綾部公懿、兼松隆之、江石清行、上平 憲、越智 誠、古井純一郎、上谷雅孝、中越 享、矢永勝彦、岡 忠之、大野康治、田島義証
人類生態学B	竹本泰一郎	
基礎自然科学分野	生物学A	難波裕幸
	統計学B	柴田義貞、三根真理子、本田純久
	化学実験B	上平 憲、中園一郎、朝長万左男、毎田徹夫、由井克之、鶴殿平一郎、貝原宗重、栗山一孝、山田恭暉、陣内逸郎、中山 亨、津田亮一、菱川善隆、林原歳久、山下康子、進 正志、東山康仁、和泉伸一
	動物学B	永山雄二、森内良三、山本一男
	細胞生物学B	山下俊一、小路武彦、松山俊文、難波裕幸
	動物生理学B	相川忠臣、吉田 繁、松本逸郎、藤村幸一

分野	授業科目	担当教官
応用自然科学分野	生物化学 A	近藤宇史、井原義人、中山 亨
	応用生物科学 B	井原 誠、大沢一貴
総合科目	現代の生命像 1	岩堀修明、由井克之、齋藤 寛
	現代の生命像 2	兼松隆之、新川詔夫、齋藤 寛
	長崎の自然・社会・文化	三根真理子
	火山と災害	竹本泰一郎
	放射能の光と影	林 邦昭
	情報と歴史	相川忠臣
一般情報処理科目	情報処理演習	三根真理子、本田純久
健康コンディショニング科目	コンディショニング	岡三喜男、諸岡浩明、赤澤昭一、草場英介、中田恵輔、山近史郎、山口義彦、辻田高宏、渡邊 浩、平潟洋一、横田徹次、芦澤直人、辻田俊也
	健康・スポーツ科学	草場英介、朝長 匡、吉嶺裕之

B . 全学教育関連委員会の医学部委員

委 員 会		委 員
全 学 教 育 実 施 委 員 会		由 井 克 之 (教務委員長)
		上 平 憲
		小 路 武 彦 (人間科学分野専門委員会委員長)
全学教育実施委員会(分野・科目別専門委員会)	社会科学分野 文化人類学	長 島 聖 司
	人間科学分野 人間学 生体機能学 生体防御 生体と薬 健康科学	小 路 武 彦
		片 峰 茂
		綾 部 公 懿
		柴 田 義 貞
	基礎自然科学分野第一 数学・統計学・物理学	柴 田 義 貞
	基礎自然科学分野第二 化学・生物学	山 下 俊 一
	応用自然科学分野 応用生物学・生物化学	由 井 克 之
	総 合 科 目	岩 堀 修 明
	一 般 情 報 処 理 科 目	柴 田 義 貞
	外 国 語 関 連 科 目	小 林 俊 光
健 康 コ ン デ ィ シ ョ ニ ン グ 科 目	進 藤 裕 幸	
留 学 生 用 科 目	片 山 一 朗	

表2 平成13年度 1～6年次授業科目(系)責任者

学年	授業科目	責任者
1年次	医と社会(医学入門)	綾部公懿
	人間生物学	相川忠臣
	人体構造系	長島聖司
2年次	医と社会	綾部公懿
	人体構造系	長島聖司
	動物性機能系	吉田繁
	内蔵機能・体液系	相川忠臣
	生体分子系	毎田徹夫
	神経・感覚器系	岩堀修明
	発生・組織系	小路武彦
	分子遺伝系	新川詔夫
3年次	医と社会	相川忠臣、中園一郎
	感染症系	片峰茂
	免疫系	由井克之
	病理総論系	下川功
	環境因子系	奥村寛
	薬理学	谷山紘太郎
	病理各論系	田口尚
	医と社会	綾部公懿
	腫瘍系	松山俊文
	分子病態系	近藤宇史
	環境因子系	齋藤寛
	病理各論系	田口尚
	内分泌・代謝・栄養系	江口勝美
	循環器系	矢野捷介
呼吸器系	河野茂	
血液・リンパ系	朝長万左男	
応用薬理学(選択)	丹羽正美	
4年次	脳・神経系	中村龍文
	腎・泌尿器系	田口尚
	内分泌・代謝・栄養系	江口勝美
	生殖系	石丸忠之
	運動系	進藤裕幸
	小児系	森内浩幸
	診断学	江口勝美
	外科治療学	兼松隆之
	感覚系(眼科学)	雨宮次生
	感覚系(耳鼻咽喉科学)	小林俊光
	皮膚・結合組織系	片山一朗
	精神系	辻村徹
	社会医学	齋藤寛、竹本泰一郎
	内科総括講義	江口勝美
	外科総括講義	兼松隆之
	臨床検査医学総括講義	上平憲
	リサーチセミナー	松山俊文

学年	授業科目	責任者
5年次	法医学	中園一郎
	社会医学	竹本泰一郎、齋藤寛
	内科総括講義	江口勝美
	精神神経科総括講義	中根允文
	小児科総括講義	森内浩幸
	外科総括講義	兼松隆之
	整形外科総括講義	進藤裕幸
	皮膚科総括講義	片山一朗
	泌尿器科総括講義	金武洋
	眼科総括講義	雨宮次生
	耳鼻咽喉科総括講義	小林俊光
	放射線医学総括講義	林邦昭
	産婦人科総括講義	石丸忠之
	麻酔科総括講義	澄川耕二
	脳神経外科総括講義	柴田尚武
	形成外科総括講義	藤井徹
	心臓血管外科総括講義	江石清行
	臨床検査医学総括講義	上平憲
	総合病理学	関根一郎
	医と社会(医療科学)	中根允文
熱帯医学	由井克之	
6年次	総合科目	矢野捷介
	臨床特論	朝長万左男
	医と社会(医療科学)	中根允文
	熱帯医学	由井克之
	内科総括講義	江口勝美
	小児科総括講義	森内浩幸
	外科総括講義	兼松隆之
	整形外科総括講義	進藤裕幸
	皮膚科総括講義	片山一朗
	泌尿器科総括講義	金武洋
	耳鼻咽喉科総括講義	小林俊光
産婦人科総括講義	石丸忠之	
脳神経外科総括講義	柴田尚武	
心臓血管外科総括講義	江石清行	
総合病理学	関根一郎	
最終臨床総括講義	矢野捷介	

表3 平成13年度 4年次後期「リサーチセミナー」

教室名	指導教官	研究テーマ	受講学生数
解剖学第一	岩堀修明	大脳基底核の進化	2
解剖学第二	長島聖司 分部哲秋	人体の局所解剖	1
	岡本圭史 佐伯和信	人体の局所解剖	2
解剖学第三	小路武彦 菱川善隆 和泉伸一 進正志	エストロゲン受容体発現への環境ホルモンの作用：分子組織化学的解析	2
生理学第一	松本逸郎	身体的及び精神的ストレスによる摂食障害とその改善	1
		身体的ストレスによるカテコールアシン分泌	1
生理学第二	吉田繁一 藤村幸一	中枢神経細胞機能の研究	2
生化学	林原歳久	ATLとポリコムジーン	1
	中山享	生命情報科学的手法を用いたプリオン感染機序の解析	1
薬理学(第一)	丹羽正美	血液脳関門 in vitro 再構築系	1
	永山雄二	甲状腺の自己免疫・腫瘍免疫	1
	中桶了太	血液脳関門 in vitro 再構築系	1
	山下康子	培養グリア細胞を用いた薬理的(基礎)検討	1
薬理学(第二)	谷山紘太郎 貝原宗重	受容体およびイオンチャネルの研究 ——クローニングとその発現——	1
	上園保人	末梢組織における受容体の機能	2
	林日出喜	細胞死(アポトーシス)関連遺伝子のクローニング	1
病理学第一	下川功	カロリー制限ラットのストレス応答	1
	大谷博	剖検症例の臨床病理学的検討	1
	千葉卓哉	新規脳特異的遺伝子の探索	1
	山座治義	カロリー制限ラットにおける加齢指標蛋白質 S M P 30 遺伝子発現の検索	1
病理学第二	田口尚	腎臓病理学	2
衛生学	有澤孝吉	がんの疫学または環境疫学	1

教室名	指導教官	研究テーマ	受講学生数
公衆衛生学	竹本 泰一郎	保健・福祉・医療の連携	1
	青柳 潔	高齢者の転倒	1
	永田 耕司	保健・医療・福祉におけるコミュニケーションケア	1
	草野 洋介	STDの疫学	1
医動物学	由井 克之	マラリアワクチン開発の基礎研究	1
	鶴殿 平一郎	分子シャペロンの抗原プロセッシング、アポトーシスにおける新しい役割について	1
	塚田 晃三	T細胞アナジの分子機構	1
	本間 季里	クロスプレゼンテーションのメカニズム	1
法医学	中園 一郎 津田 亮一 池松 和哉	新しい低酸素特異的蛋白質の検索	2
原研病理	関根 一郎	実験放射線腸炎におけるアポトーシス	1
	中山 敏幸	大腸癌における Angiopoietin の発現検討	1
	中山 敏幸	胃癌における Interleukin - receptor の発現検討	1
	中島 正洋	チェルノブイリ原発事故汚染地域に発生した甲状腺癌における Wnt 細胞内伝達系活性化の関与の検討	1
原研放射	岡市 協生	p53遺伝子の変異	1
	芦澤 潔人	甲状腺がん細胞の浸潤性の検討	1
原研生化	近藤 宇史 後藤 信治	酸化ストレスによるアポトーシス	1
原研疫学	柴田 義貞 本田 純久	放射線被曝の健康影響に関する疫学的研究	1
原研遺伝	松本 直通	単一遺伝子病の遺伝子単離	1
原研細胞	山下 俊一	チェルノブイリ周辺における小児甲状腺がんの分子疫学	2
	難波 裕幸	甲状腺癌の発癌機構の解析	1
	大津 留晶	新がん遺伝子治療の開発	1
感染防御	山本 一男	インターフェロン誘導に必須の IRF 3kinase のクローニング	2
感染分子	坂口 末廣	プリオン病の分子生化学	1
	西田 教行	プリオンはどこに？	1
	森内 良三	HTLV-1発がん研究	1

教室名	指導教官	研究テーマ	受講学生数
動物実験施設	左藤 浩 大沢 一貴	遺伝子組換え技術を応用したリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス診断用抗原の作製	1
熱帯医学研究所			
分子構造	森田 公一	リコンビナントウイルスを用いたフラビウイルスの研究	2
	長谷部 太	日本脳炎ウイルス特異的ポリメラーゼの解析	2
病原因子	平山 壽哉 和田 昭裕	ヘリコバクター・ピロリの宿主細胞内に打ち込まれるエフェクターの同定	1
感染細胞	神原 廣二	インドネシア、ロンボク・スンバワ島における腸管内感染原虫の疫学	2
	中澤 秀介	マラリア原虫の再燃	1
寄生行動	青木 克己	住血吸虫ミラシジラムの中間宿主貝への走化性	1
	藤巻 康教	糸状虫感染幼虫の宿主血清への走化性	1
炎症細胞	中村 三千男 熊取 厚志	G Tミスマッチ結合タンパク質の解析	1
病変発現	鳥山 寛	肝疾患の臨床病理学的研究	2
	岩崎 琢也	ウイルス感染症の病理診断	1
生物環境	高木 正洋 津田 良夫	疾病媒介蚊生息環境の景観生態学的記載の試み	2
社会環境	溝田 勉	「人間の安全保障」のための国際保健	1
	谷村 晋	保健指標の地理的差異の検討 ——空間疫学解析と情報の視覚化——	2
疾病生態	平山 謙二	Th2サイトカイン(IL - 4、13、5)遺伝子プロモーター領域の多型性とサイトカイン産生能との関連	2
熱帯感染症研究センター	鈴木 博	長崎市街地のツツガムシの野外調査とその疫学的意義	2
	嶋田 雅暁	熱帯寄生虫病の疫学	2

海外実習生

大 学 名	実 習 学 生 数
1 ライデン大学医学部	2
2 ビュルツブルグ大学医学部	2
3 ミンスク医科大学	3

表4 A. 平成13年度長崎大学医学部臨床実習協定締結施設

	施設名	協定年月日
1	長崎市立市民病院	平成8年6月1日
2	日本赤十字社 長崎原爆病院	平成8年6月1日
3	長崎市立病院成人病センター	平成8年6月1日
4	長崎県立大村病院	平成8年6月1日
5	社会福祉法人 長崎市障害福祉センター	平成8年6月1日
6	財団法人 長崎県総合保健センター	平成8年6月1日
7	医療法人春回会 長崎北病院	平成10年5月20日
8	江上耳鼻咽喉科医院	平成11年5月31日
9	医療法人祥仁会 西諫早病院	平成12年6月19日
10	医療法人白十字会 佐世保中央病院	平成12年7月21日
11	長崎市中央保健センター(長崎市保健所)	平成12年11月24日
12	医療法人友愛会介護老人保健施設 にしきの里	平成12年11月24日
13	医療法人清潮会介護老人保健施設 みどりの里	平成12年11月24日
14	日本海員掖済会 長崎病院	平成13年5月11日
15	阿南皮膚科医院	平成13年5月11日
16	医療法人北辰会 久保皮膚科医院	平成13年5月11日
17	国立療養所長崎病院	平成13年5月11日
18	ゆきなり・クリニック	平成13年7月10日
19	虹が丘病院	平成13年8月7日

B. 平成13年度長崎大学医学部臨床教授、臨床助教授、臨床講師一覧

称号	氏名	施設名
臨床教授	楠本征夫	長崎市立市民病院
臨床教授	西本勝太郎	長崎市立市民病院
臨床教授	宮田昭海	長崎市立市民病院
臨床教授	鈴木伸	長崎市立市民病院
臨床教授	江上徹也	江上耳鼻咽喉科医院
臨床教授	千葉憲哉	西諫早病院
臨床教授	馬場輝実子	国立療養所長崎病院
臨床教授	平松公三郎	国立療養所長崎病院
臨床講師	松永和雄	長崎市立病院成人病センター
臨床講師	山崎和文	長崎市立病院成人病センター
臨床助教授	田所正人	長崎市立病院成人病センター
臨床教授	須山尚史	長崎市立病院成人病センター
臨床教授	田浦幸一	長崎市立病院成人病センター
臨床教授	富田弘志	長崎県総合保健センター
臨床教授	植木幸孝	佐世保中央病院
臨床教授	阿南貞雄	阿南皮膚科医院
臨床講師	長谷芳文	日本海員掖済会長崎病院
臨床教授	山本登	日本海員掖済会長崎病院
臨床教授	辻畑光宏	長崎北病院
臨床教授	左藤聡	長崎北病院